

クリーニングクロス
Toraysee® for CE
USER'S REPORT 3

life
innovation

秋田赤十字病院
医療技術部 臨床工学課

TORAY
Innovation by Chemistry



JAPANESE RED CROSS AKITA HOSPITAL

ME機器全般

ME 機器では下記の用途が有用とされます。

■ 輸液ポンプ、シリンジポンプのメンテナンス時

当MEセンターでは、装置の清拭に Toraysee® を使用していますがメンテナンスクロスとしても有用です。病棟から返却された装置では右の写真のように輸液ラインに沿って、薬液が付着しているケースがあり、ピンセットなどにクロス巻きつけて清掃しています。環境クロスで行うと、クロスが破れ、ちぎれがありますが、Toraysee® は破れたり、ちぎれたりしないので有用です。



■ タッチパネル、モニターの清拭

装置のタッチパネル式の操作画面やモニター画面は、表面に特殊なコーティングがされているものが少なくなく、画面の清拭には注意が必要です。実際の取説にもタッチパネルの清拭には、布やガーゼではなく、「市販のメガネ拭き」を使用するよう明記されているものもあり、そのような機種には Toraysee® を使用しています。(装置ごとの取説をよく確認してください)



■ コードの清拭

当MEセンターでは電源コードも Toraysee® で清拭しています。特に電源コードは、汚れが目立つ部分ではありますが、環境クロスに比べ汚れ落ちもよく、汚れの引き伸ばし、再付着等は見られていません。もし、電源コードを環境クロスで清拭している施設であれば、Toraysee® とのコストパフォーマンスを是非比較してみてください。



Toraysee® を含水させて鉢巻状にします。

コードに巻きつけるようにして Toraysee® を往復させると簡単に汚れが落ちます。

使用後の管理および廃棄の時期

当MEセンターでは、Toraysee® について、導入前検討した結果を基に、輸液ポンプ、シリンジポンプにおいては、1枚のToraysee® に水道水を含ませ固く絞って、1日30台程度清拭しています。使用後は適宜、ミルトン®などに浸漬して消毒をするとういでしょう。1枚のToraysee® の使用期間は、清拭対象のリスクや汚れにより判断していますが、当院では各部門とも原則1枚あたり一日使用して廃棄しています。継続使用についてのデータは以下の文献に記載しています。(参考文献:日臨工会誌2015.No53:67-71)廃棄の時期は、先に述べたように、清拭対象、リスクや汚れが使用施設ごと違いがありますので、使用施設ごとに判断基準を設けることが必要と考えます。Toraysee® の清拭効果や細菌除去性能のデータは諸家より報告されていますが、明らかな血液汚染が確認できる箇所への清拭に関しては、まずは環境クロスで清拭した方が適切な方法であると思われます。なお、最初から消毒を目的としてToraysee® を使用するならば、対象に適切な消毒薬をToraysee® に含浸して使用します。

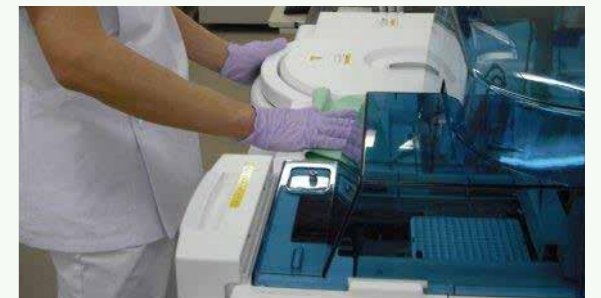
リハビリ室で使用

リハビリ室での汚れは主に患者さんの皮脂汚れや汗によるものが多いと思われます。リハビリ機材の清拭は従来タオル地の綿雑巾を使用していましたが、Toraysee® は、めがね拭きで感じられるように脂汚れに対しての汚れ落ちが良好です。



検査室で使用

検査室にもMEセンターと同様に高額な機器が少なくなく、保守清掃が大変気を遣います。また、業務環境から、薬剤や洗浄剤の使用にも気を遣います。Toraysee® は清拭対象に応じて乾式でも湿式でも使用できるので便利です。



新生児室で使用

使用中の保育器は、清拭頻度も高いものですが、新生児への影響を考慮すれば、清拭時の薬剤の使用は極力避けたいです。また、保育器を構成する部材には、アクリル製の部分あり、使用可能な薬剤に制限があります。従来は、タオルを使用していましたが、拭きムラや、毛羽が残るなどの課題がありました。Toraysee® ではそのようなことが無くなりました。



まとめ

Toraysee® を導入して1年半が経過しましたが、導入前に比べて、機器類の清浄度は高くなっています。(輸液ポンプにおいて清拭後 ATP(+AMP) ふき取り検査で 100RLU 前後) 環境クロスの使用ではこれまでの清浄度は達成出来なかったと思われます。

Toraysee® の導入に際し、従来の環境クロス等の1枚あたりの価格を比較すると定価で約30倍もの差がありますが、適時適切に Toraysee® と環境クロスを使い分けることにより、環境クロスの使用量は導入前に比べて半分以下になりました。

現在、当院ではMEセンターのみならず病院全体で Toraysee® を使用しています。これは、Toraysee® が、用途や用法(ウェットワイプ、ドライワイプ、消毒薬含浸)を限定しないうえ、清拭効果が非常に高いということが多部門での使用に至りました。

環境クロスの長所を決して否定するわけではなく、それぞれの清拭クロスの特性を把握し、私たちが管理する医療機器を長く綺麗に維持していくために適切な清拭クロスを選択して使用する必要があります。